

公と私を結ぶ

— 東南アジアから考える新しい共生のかたち —

■本ワークショップの目的と実施報告

本ワークショップは、東南アジアの社会をめぐり、これまで十分に論じられてこなかった新しい視点を提示して論じることを目的とした。すなわち、文書資料を通じて、王朝史、植民地統治史、国史(ナショナルヒストリー)の形で公権力の展開から社会を描こうとする、「公」の視座と、オーラルヒストリーや声なき語りにより耳を澄ませ、民衆から社会の営みを描こうとする「私」の視座、この二つの側面が一つの社会を作ってきたという見方から、東南アジアにおける社会のあり方を捉えなおしてみようとする試みである。この目的に基づき、2012年1月8日にワークショップを開催した。ワークショップには、京都大学、上智大学、東京大学、立命館大学、早稲田大学など、広く国内の東南アジア研究者ら43人の参加者があった。

■ワークショップの概要

・日時: 2012年1月8日

・会場: 京都大学稲盛記念会館大会議室

・プログラム

開会の辞 速水洋子(京都大学東南アジア研究所)

第一パネル「文書と語り——王国・植民地期の地方統治」

(司会: 牧野元紀(東洋文庫主幹研究員))

増原善之(京都大学地域研究統合情報センター研究員)

「動く住民、追う権力: 前近代ラオス在地社会における人々の移動とその管理について」

坪井祐司(東洋文庫研究員)

「イギリス領マラヤ・スランゴールにおける地方行政区画の成立とマレー人社会」

コメント: 飯島明子(天理大学国際学部)

第二パネル「都市と辺境——領域国家形成期の人の移動」

(司会: 小川有子(東京大学東アジア・リベラルアーツ・イニシアティブ特任講師))

長田紀之(東京大学大学院博士課程)

「植民地港湾都市と「国境」の出現: 英領ビルマにおけるインド人移民統制をめぐって」

王柳蘭(京都大学地域研究統合情報センター・日本学術振興会特別研究員)

「移動とネットワークが生み出す共生的世界: 北タイの雲南系ムスリム」

コメント: 早瀬晋三(大阪市立大学大学院文学研究科)

第三パネル「寺と学校——ポスト開放期における公・私関係の再編」

(司会: 小島敬裕(京都大学地域研究統合情報センター研究員))

小林知(京都大学東南アジア研究所助教)

「修行、公的教育、アジール: 現代クメール人の出家行動の動態と多義性」

伊藤未帆((東京大学社会科学研究所・日本学術振興会特別研究員)

「〈民族〉と学校: 進学をめぐる少数民族優遇政策と私的選択」

コメント: 速水洋子(京都大学東南アジア研究所)

総合討論

コメント: 小泉順子(京都大学東南アジア研究所)

コメント: 林行夫(京都大学地域研究統合情報センター)

コメント: 古田元夫(東京大学大学院総合文化研究科)

(総合討論司会 山本博之(京都大学地域研究統合情報センター))

閉会の辞 山本博之(東南アジア学会・京都大学地域研究統合情報センター)

(総合司会 西芳実(京都大学地域研究統合情報センター))